

Yokohama

ふくしネットワーク

Y ネット通信

〔発行〕

横浜ふくしネットワーク

(代表：家田 満男)

<http://ynet.d2.r-cms.jp/>

〔編集責任者〕 江原 顕(松風学園)

横浜市泉区上飯田町1987

Tel045-802-0441

Fax045-803-4963

第6回Yネットセミナー

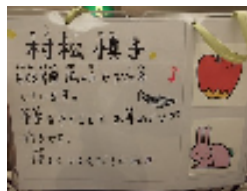
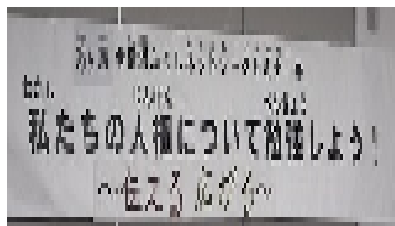
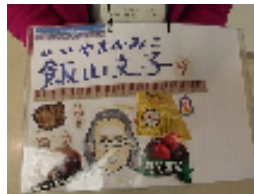
平成 23 年 2 月 24 日 (金)、横浜ラポールにて第6回Yネットセミナーが開催されました。

今回は利用者さん同士「自己紹介」を行いました。自分の名前や好きな食べ物、好きなこと、趣味などを相手に“伝える”“知ってもらう”ことを皆で勉強しました。(すみれ園 橋本)

①職員さんと職員さん



まずはお手本。職員さんも緊張です。



②利用者さんと職員さん



相手の顔を見て、
伝えられたでしょうか？



③利用者さんと利用者さん



上手に出来ましたね！！



和気あいあいと

とても熱心に



話し込んでますね・・・！

Ｙ ネット新加入施設 横浜市中山みどり園

この度、Ｙ ネットに加盟させていただいた横浜市中山みどり園です。私たち県央福祉会が、みどり園の指定管理を受けてから約6年になります。生活介護と自立訓練（生活訓練）及び自立生活アシスタント事業を行っています。

現在、利用者さんが41名おられて毎日作業、散歩、音楽、調理等の活動に励んでおられます。活動の特徴としては、年に1人1回から2回1泊2日の園内宿泊を行っていることと、月に1人2回程度の職員と1対1の個別活動を行っていることです。職員や利用者さんは、皆さんとの交流を楽しみにしていますのでよろしくお願いします。



横浜市中山みどり園 施設長 鈴木 紀雄

はじめまして。この度、横浜市中山みどり園のＹ ネット推進員を務めることとなりました福田恭平です。横浜市中山みどり園の支援員として、今年度で4年目となります。まだ、Ｙ ネット推進員となって数ヶ月ですが、他加盟施設の職員の方々と接し、様々な考え方や取り組みがあることを知り、とても新鮮に感じています。

日々、私たちが利用者の方に対して行う支援は、もちろん利用者の方を考えて行っているものですが、時として、それは常態化することで、職員としての立場からの支援になっていることもあるのではないかと思います。今回、Ｙ ネットに加盟し、第三者からの目線で、私たちの行っている支援は本当に利用者の方を考えたものなのか、見てもらいたいと思います。そして、Ｙ ネットを通じて、自分自身、多くの刺激を受けて成長できればと思います。よろしくお願いします。



横浜市中山みどり園 支援員 福田恭平

この度、Ｙ ネットの推進員をさせて頂くことになりました、横浜市中山みどり園の西尾瑞希です。現在の職場で支援員として働き始め、3年程になります。私はこれまで他の職場で働いた経験がないため、加盟施設の職員さんとの情報や、意見の交換が出来るＹ ネット推進員部会の場は、自分にとって他施設を知る貴重な場でもあると思っています。

既に何度か推進員部会に参加させて頂いていますが、異なる施設で働く同じ職種の方々と、仕事の中で感じたことや、疑問等を話し合えることで、自分の施設で話し合うこととはまた違った意見も聞くことができるのではと思います。また、そういった意見や他施設の話聞くことで、自分の視野をより広げることができればと思っています。

権利擁護という言葉は、耳馴染みのある言葉ではありますが、その捉え方や実践の方法は施設や職員によっても様々だと思います。推進員部会で得た情報や知識を、自分の施設や日々の支援に活かし、利用者さんの権利を守る視点をより確かなものにしていけるよう頑張りますので、今後とも宜しくお願い致します。



横浜市中山みどり園 支援員 西尾瑞希



中山みどり園正面



外出プログラムの様子



制作活動中の様子



園内の様子

神奈川県オンブズマンネットワーク交流研修会に参加して

Yネット OP 藤井里絵

この研修会は、県内のオンブズマンネットワークに所属する OP や施設職員が交流し学習する場で、毎年行われています。今年度は平成 23 年 12 月 7 日（水）、かながわ県民センターにて開催されました。（主催／神奈川県知的障害福祉協会・人権委員会、神奈川県知的障害施設団体連合会）

本研修会は、基調講演とグループ討議の 2 部構成により行われました。

基調講演は社会福祉法人みなと舍ゆう施設長の森下浩明氏が東日本大震災の被災地に赴かれた時の写真を紹介しながら、被災地における施設の現状を詳細に報告して下さいました。ニュース報道で同様の放送を見た事はありませんでしたが、本講演では施設長という、まさに支援者側の目線で解説が加えられたため、被災地における施設の現状をよりリアルに、詳細に知る事が出来ました。

グループ討議では、ケアホームにおける 2 つの事例について討議がなされました。事例 1 は、男女混合のケアホームにおける男女問題と施設の体制につ

いて、事例 2 は、ケアホームにおける利用者さんの管理と職員さんの対応についてでした。私が参加したグループは施設職員さん 5 名と OP 2 名で構成されたグループでしたが、立場にとらわれることのない忌憚のない意見交換がなされました。最終的にグループで意見をまとめ、全体の場での発表となりましたが、同じ事例で討議した他のグループも私たちのグループと同じような論点で議論されたようで、結果もほぼ一緒でした。利用者さんの権利擁護という視点を主眼に置けば、より良い支援や環境について導き出される答えは、おのずと同じものになるのだと感じました。



Yネット施設間研修

Yネットでは毎年、加盟施設による施設間研修が行なわれています。支援員を派遣する側は他施設の現場の支援を体験する機会となり、また、受け入れる側は他施設の支援員から見た自施設の支援の在り方、権利擁護の在り方を顧みる機会となります。



私自身、2011 年 12 月に空とぶくじら社で施設間研修に参加

する機会を頂きました。利用者特性や施設面での条件、日中活動、作業種等、自施設と比較して違う点は多々ありましたが、とても新鮮で学びの多い二日間となりました。



Yネットの活動の一部として参加しているため、権利擁護の視点も勿論重要であったのですが、私が最も印象に残っていることは、空とぶくじら社の利用者さんたち、職員みなさんの生き生きとした表情

です。それは、お互いに日々真剣に向き合い、一つ一つのプログラムに取り組んでいる結果だと感じました。

今後もYネットの施設間研修が障害者福祉における権利擁護の取り組みと支援向上のきっかけになるよう、活動を継続していくことが大切だと思います。



（※写真：空とぶくじら社 日中活動の様子）

偕恵シグナル 横山 亮

利用者さんの声

今回は横浜市つたのは学園の利用者さん N さんにインタビューをしました。

Q. つたのは学園ではどんなことをしていますか？

A. 刺繍作業をしています。あと、散歩で横浜線を見に行くのが好きです。

Q. 好きな食べ物はなんですか？

A. 納豆が好きです。あと、そばとうどんもです。毎朝おにぎりを食べています。

Q. 休日はどんなことをしていますか？

A. お休みのときは、ヘルパーさんと一緒にカラオケに行っています。

-----ありがとうございました。

横浜市つたのは学園は「光と風」「こもれび」「クラフティ」の3班に分かれています。各班の活動は散歩やドライブ活動を中心に畑作業や創作活動（刺繍・陶芸）を行っています。また、午後の活動では班合同で活動をしており文化活動とスポーツ活動に分かれています。

そして、第1・3木曜日にはご家族が中心に運営するモチーフにいき、ホットコーヒーなどそれぞれ好きな物を頼みのんびりと過ごしています。



Y ネットOP いしいひろあき 石井寛昭さんへのインタビュー



Y ネットでは福祉サービスを利用する方の声を施設や行政に伝えていく権利擁護のための OP（オンブズパーソン）活動が行われています。OP はどのような気持ちで活動に取り組んでいるのか？ 石井さんに話を伺いました。

■ 自己紹介

OP の活動を始めて8年目になります。活動当初は 20 代だった私も、いつの間にやらアラフォーと呼ばれる年齢に。こうして活動を続けていられるのも、温かく迎えてくださる皆さんのおかげです。職業は司法書士で、事務所は東京都あきる野市にあります。趣味は読書とメダカの飼育です。

■ OP 活動への意気込みや心がけ

小学生の頃、同じクラスに不思議な友達がいました。できないことは多くても、みんなが苦手なところを補い合い、一緒に授業を受けていた友達です。でも、その子は突然転校してしまい、それが旧養護学校に通うためだったというのは後になって分かったことです。生きるために特別な支援が必要な人が、必要な支援を受け自分らしく暮らせること。人としての権利が奪われないようにすること。私にとっての OP 活動は、かけがえのない友人が教えてくれた、このような普通の暮らしの実現にあるのかもしれませんが。苦手な事は誰にでもあります。私は、それを補い合い暮らしていけるのが、本来の社会のあるべき姿だと思っています。

■ これまでの活動の印象

8年間で5つの施設を担当させて頂きました。それぞれの施設に特徴があり、多くの熱意ある職員さんにも出会いました。時々、意見の食い違いも起き、意見をぶつけ合う時もありますが、そこから良いものが生まれれば素晴らしいと思っています。そして、職員さんのお手伝いが好きな人、素敵な絵を画ける人、笑顔の素敵な人、真面目にお仕事をしている人、毎日生懸命に生きている全ての人と、これからも寄り添いながら活動できる OP になりたいと思っています。よろしくお願い致します。



～編集後記に替えて～ 昨年12月、私たちYネットの加盟施設において、入所者が安全帯によりベッドに拘束されて就寝している間に亡くなるという事故が起こりました。身体拘束は人権侵害にあたるため、原則的には行ってはなりません、やむを得ず、切迫性・非代替性・一時性の条件のもと、職場で協議した上でご家族等の同意も得て行われることがあるという現実があります。私たちは、亡くなったかたのご冥福を祈るとともに、この現実と正面から向き合い、権利擁護とより良い支援のため、検討・見直しに努めたいと考えており、今後も議論を続けていきます。（松風学園 江原）